

## 『諏訪の本地』の研究 (七)

白石 一美

諏訪本地は兼家系統と諏方系統に二分類されるが、このうち前者の、室町末期より江戸前期にかけて書き写された絵巻物形態などのものが南九州に3部伝えられている。

その一つは天文十二(1543)年書写・上下二巻の絵巻物であり、これはそのB現物が鹿児島県湧水町の南方神社宮司石川浩一氏のもとに保存せられている。

いま一つは、原本は大永五年(1525)年のものであるが、原本損傷のためC明暦四(1658)年に再度書き写し直した同じく二巻の絵巻物である。これは宮崎県えびの市諏訪神社家黒木(忍・典子)家伝来のものであるが、現在はいえびの市立図書館に隣接するえびの市歴史民俗資料館に寄託せられている。

さらに一つは都城市の歴史資料館に保管のもの、古い「当社縁起両巻」が廃損したのでA天和三(1683)年に再度書き写したことを奥書に明記し、古くは絵巻、現在は断簡形態のものである。

湧水町とえびの市が互いに隣接し、これらよりほど遠くない地に都城市が位地することから3本が間接的に何らかの書承関係を有するのであるう、とは容易に想像されるのではあるが、微細にわたる具体的関係は現在不明である。

滋賀県にも兼家系の冊子写本が存在し、塩商人が馬を扱う記述が本文にあり、別に横山 重・大田武夫校訂『室町時代物語集 第二』翻刻分にも馬が現れる。だが前記ABC三本が塩を担う動物は何れも牛である。これらの滋賀県望月善吉本や古浄瑠璃に接近するかと

される翻刻をも視野に入れつつ『諏訪の本地』の研究就中書写享受史(含拙稿)方面を開くには校本の提供が便利であろう。

本稿はA都城市・B湧水町・Cえびの市所在の『諏訪の本地』兼家系3本の一字一字を比較対照できるように配列した校本である。

組版の都合で一行を三十五文字に、一ページを上下二段組にした。紙幅の節約上、文中などに、補助符号として★◆◇☆その他を使用した。

文字・符号の配列例

ひとまとまりの本文ABC3行一群を一組とする。

第1組と第2組との間に1行分の空白を置く。この空白部分に本文中に補入すべき字句を●などの符号を冠して置く。

補入符号●と被補入位置を示す符号●との位置関係は概ね水平位置である。本文を読んで●が現れたら右か左に眼を転じて補入すべき字句をさがすこととなる(都合で例外あり)。

(第1組の例では、本文B●に「三郎殿」が入るの意)

組版の都合で水平位置を崩すこともあり、また第3組のように現れることがまれにある。これは1個の「三郎殿」が本文中の複数箇所機能するの意である。

補入符号が有効に機能する範囲は、当該位置の直前ABC3行ま



CBA	老翁のものととりあかりたまふて宿り給ふ	らうしんのもにとりあかりたまふて宿り給ふ	老翁のものととりあかりたまふて宿り給ふ
CBA	日本国筑前の国はかたの津に付かせたまふ	日本国筑前の国はかたの津に付かせたまふ	日本国筑前の国はかたの津に付かせたまふ
CBA	給ふ浪風にまかせてゆほ□□□□を	給ふ浪風にまかせてゆほ□□□□を	給ふ浪風にまかせてゆほ□□□□を
CBA	ひきくして御船にとり給ひて	ひきくして御船にとり給ひて	ひきくして御船にとり給ひて
CBA	けつくわんせられて彼の国を追い給ふ	けつくわんせられて彼の国を追い給ふ	けつくわんせられて彼の国を追い給ふ
CBA	大王えいりよやすめかたくおほしめして	大王えいりよやすめかたくおほしめして	大王えいりよやすめかたくおほしめして
CBA	おかしたいしやうし給ふよし	おかしたいしやうし給ふよし	おかしたいしやうし給ふよし
CBA	かかりしほとにかたへの大將のきやうさう	かかりしほとにかたへの大將のきやうさう	かかりしほとにかたへの大將のきやうさう
CBA	御覚かしこくおはしまして宿屋の奉公めてたかりし	御覚かしこくおはしまして宿屋の奉公めてたかりし	御覚かしこくおはしまして宿屋の奉公めてたかりし
CBA	時に内大臣の右大將とてしんかまします	時に内大臣の右大將とてしんかまします	時に内大臣の右大將とてしんかまします
CBA	原はらなひ国といふ國あり	原はらなひ国といふ國あり	原はらなひ国といふ國あり
CBA	十六の大国五口の中國むりやうのそくさん國の	十六の大国五口の中國むりやうのそくさん國の	十六の大国五口の中國むりやうのそくさん國の

CBA	はかたのつをはかたの津を【以上C散佚】	はかたのつをはかたの津を【以上C散佚】	はかたのつをはかたの津を【以上C散佚】
CBA	さては【以上C散佚】	さては【以上C散佚】	さては【以上C散佚】
CBA	とそ申ける内大臣	とそ申ける内大臣	とそ申ける内大臣
CBA	うけたまはれ候かゝるところは有とて	うけたまはれ候かゝるところは有とて	うけたまはれ候かゝるところは有とて
CBA	昔かしよりぬしをさためられ候へ共	昔かしよりぬしをさためられ候へ共	昔かしよりぬしをさためられ候へ共
CBA	申けるはそもあふみの國かうかの郡	申けるはそもあふみの國かうかの郡	申けるはそもあふみの國かうかの郡
CBA	ぬしなき所いかてか	ぬしなき所いかてか	ぬしなき所いかてか
CBA	定置給ふなりと申内大臣	定置給ふなりと申内大臣	定置給ふなりと申内大臣
CBA	國にははくし城にははしやうし	國にははくし城にははしやうし	國にははくし城にははしやうし
CBA	かたしけなくもかたしけなくも	かたしけなくもかたしけなくも	かたしけなくもかたしけなくも
CBA	給へは主家□□し	給へは主家□□し	給へは主家□□し
CBA	おほせられけるは抑抑	おほせられけるは抑抑	おほせられけるは抑抑









CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA
またかりたる所もあり	あとを尋て見給へは	あしのあとを見つて御覧しければ	命にかへても弓取りの	せらるゝならは人に	つゝにたつねしといは	とて	しはらく思ひ案して	兼家知行	兼家知行	仰候は	知行の分	●おほせられる
扱	見給へは	見給へは	おもひかへして	いはれんことこそ	あまつさへ	とて	おほしけるは	仕候へき	仕候へき	おそれ候へとも	を	とりぬのまへにては
十里はかり尋入て	見給へは	見給へは	いさやさいや	末代までも	所領	とて	おほしけるは	の給ひければ	の給ひければ	かたの御知行ふんを	とらん仰候しものを	まじしくふしつ科に
見給へは	見給へは	見給へは	たつねみんとて	口惜けれ	わかれてちきやう	とて	おほしけるは	太郎殿	太郎殿	はん分つ給て	此手のぬしを尋し	兼か兼か
				●帰たると	を	とて	おほしけるは	道に	道に	はん分つ給て	此手のぬしを尋し	兼か兼か

CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA
いかに候とて	さし添て	へんして	せめ給へは	いかなる	三郎殿	こは	ほろほしつる	是程	これほど	ふき	吹	人々
◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎
うちちみて対面申	まくれなみの	せいかうの	かなはしとおもひけん	まえんの物	此よしを聞き給ひて	いかすへきとそ	みつかから	手こわき衆生にこそ	てこわき衆生にこそ	あらずからすや	あらずからすや	いはやの口にて
三郎殿	あふきひらき	しろかたなざして	ひけん	はや	如何なる物そ	たけりける	てを	いまたあはさりつれ	いまたあはさりつれ	おほくの	おほくの	聞
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
御覧しければ	おし明て	こちくのよこふえ	ゆふけいなるに	くわいんをむすひて	此岩屋のうちに	やすからす	やすからす	そくはくの人たねを	そくはくの人たねを	えしきに	えしきに	給へは
御覧しければ	あけ	よこふえ	なるに	火のいんをむすひて	此岩屋のうちに	やすからす	やすからす	おほ	おほ	しきに	しきに	おほきなる
				と	此岩屋のうちに	やすからす	やすからす	おほ	おほ	しきに	しきに	おほきなる





















CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA							
しらす 山のいた き遠く なり	穴の口を つと行 出てた まいて	其時三 郎殿殿 ▲給ひ てあゆ み給ふ 程に	行先を 御覽し ければ いさみ をなし	ゆくす 多を御 らんし ければ まこと のあか りのや うに	誠はこ とにこ とほり 也	まこと にこと ほり也	祢の國 にもと まら す	祢の國 にもと まら す	つぎ給 はぬ事 のなか なしさ よ	○此の やいや 皮の翁 は	○其時 三郎殿 の月日 を送る 程に	したひ に月日 へける ほとに	こゝに てやい かをは ○清水 三すく い	おほし き所に けにも 清水あ り	★去程 に道に けにも 清水あ り	みちは 木の葉 まじり のの	あゆみ よき事 も	いまは 七日半 は過ぬ らんと	きたる らんと

CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA	CBA
色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と	色をも 香をも しる人 そしる そかし と



















CBA	いまいりて きたの かた 小太郎殿に かくと申せ は	CBA	★御まへにはしり きたの御かたにも 小太郎殿にも かくと申せ は	CBA	たゆめの心 ちして さら うつとも おもひたまはす	CBA	さりながら いかなるてんまきたりてもあれ 天魔外道にりてもあれ まさしく三郎殿の御すかた	CBA	たいにて おはしませはとて いそきわたりて きたの御かたも小太郎殿も	CBA	さうの御てに とりつきて うれしきにもなみた ○にもなみた	CBA	たなみたをおさへて なくより外のことそなき さるほどに 三郎殿	CBA	御さしきに なをり給ひて ありしむかしの事を なみたにむせひ	CBA	御座敷に なをり給ひて ありしむかしの事を なみたをおさへて	CBA	うちなきくそ かたり給ひける はしめ二人のしやきやうにあひて	CBA	うちなきくそ かたり給ひける はしめ二人の舎兄の にあひて	CBA	あらしひの事 わかさのくに かうかけ山にて きりんわうを	CBA	あらしひの事 若狭の国 からかけ山にて きりんわうを	CBA	うち給ひし事 あなの中このひめ君の事 かみゆへに ふたたび	CBA	うち給ひし事 あなの中このひめ君の事 かみゆへに ふたたび	CBA	穴にいら給ふこと さて しやきやうに すてられ給ひし事	CBA	あなにいら給ふこと さて あにの人々にあなに すてられし事	CBA	祢のくにあり様 なきの松原にて あき人に はらはれし事 又	CBA	祢のくにあり様 なきの松原にて あき人に はらはれし事 又
-----	---	-----	--	-----	---------------------------------------	-----	---	-----	---	-----	--	-----	--	-----	---	-----	---	-----	--------------------------------------	-----	--	-----	---------------------------------------	-----	-------------------------------------	-----	--	-----	--	-----	--------------------------------------	-----	--	-----	---	-----	---

CBA	きふのあした へひとてうたれし事 あまつさへ 小さ女にふすめられし	CBA	きのふの朝 へひとてうたれし事 あまつさへ 小さ女にふすめられし	CBA	おもひの▼こととも ゆふへ 御たうに参りて 観音の御りしやうによりて	CBA	いしやうをぬき給ひし事 かたり給ひければ みななく一日一夜そあかし給ふ	CBA	○ねうはうたちをはしめて 上下万民 袖をそしほりける	CBA	さて ★三郎殿仰られけるは おはしますかと ゆきいゑさん候と申	CBA	たつとひ しやきやうにてもおはしませ このとし月のむくひを	CBA	其時 三郎殿 舎兄にてもおはしませ 此とし月のむくひを	CBA	しらせ申さては えもこそ あるまじけれとて ★つらかりし事 た御身	CBA	○おもひしらせたてまつらんとして 一騎にて太郎殿のたちへ おしよせ給ふ さて えんのきわへ●給ふ	CBA	★あふみふんはり ゆつへつきてそ☆ 二ら殿おはしし候やらん	CBA	☆つたちあかり ゆんつえをつみて☆ 二ら殿おはしし候やらん	CBA	☆はやく いてさせ給へ▲けんさん かく申物をは いかなる物とかおおもひ給ふらん	CBA	☆出させ給へ▲けんさん かく申物をは いかなる物とかおおもひ給ふらん	CBA	是こそ ひととせ かつかの山にて きりんわうか いはやのうちに	CBA	すてられたまつりし みし かつかの三郎兼家 こそ 今日と申に ふしきに	CBA	すてられたまつりし みし かつかの三郎兼家 こそ 今日と申に ふしきに
-----	--	-----	---	-----	---	-----	---	-----	----------------------------------	-----	--	-----	-------------------------------------	-----	-----------------------------------	-----	---	-----	--	-----	-------------------------------------	-----	-------------------------------------	-----	--	-----	--	-----	---	-----	--	-----	--

















